

追分地区土砂生産協議会から最後の善意



追分地区土砂生産協議会の設立から約23年、設立当時は12社の会員により、農地やゴルフ場の開発、野球場、陸上競技場の土砂運搬を担ってきました。

現在、会員は3社まで減少。開発行為や道路などの整備事業が一区切りついたということで、会員から徴収していた会費の残金すべてを町道の維持補修のためにと寄

付を申し出ました。

平成2年に設立となったきっかけは、農地開発をしたい地主と業者とのトラブルでした。そのため地主の不安を払拭するために協議会が保証することで、安心して農地開発をしてもらうことが目的だったそうです。

開発行為や道路整備が進む中、大型車両の通行による道路の損傷が目立ち始めたところ、町の協力をなくしては生業が成り立たないとして、会員から集めていた会費の一部を道路補修のためにと町への寄付を永年にわたり続けてこられました。

5月29日、最後の善意を、と白石理事長を含め3名の方が役場に来庁し、瀧町長と昔話を交えながら、現在の状況などについて情報交換を行いました。同会があつてこそ、進んだとも言える開発事業を思い出し、言葉では言い現せない感謝の思いを込め、固く握手を交わしていました。

こんな活動しています

サークル紹介

安平町追分SL保存協力会

連絡先 教育委員会
☎ 0145 (25) 2083

今回紹介するのは、鉄道資料館で保存されている車両や部品などの管理をしている「安平町追分SL保存協力会」の皆さんです。

今年度の開館に向けた準備のため集まったところを取材させてもらいました。

現在は60名の会員で、鉄道で発展した町の象徴を守り、後世に残し伝えていこうと、鉄道資料館の掃除や展示品・展示車両の整備、来館者の案内などを行っています。

活動の拠点となる鉄道資料館の目玉は、何ととってもデゴイチの相性で親しまれるSL「D51・320」。

丹念に整備され続けてきた

この車両は、日本一の保存状態にあるのだとか。

会員の方々は「鉄道で栄えた町の象徴をぜひ見に来てほしい。老若男女問わずワクワクすることができると思う。」と話してくれました。

今の車両にはない繊細なデザインを見るのもよし、SLを見て昔を思い出すのもよし。SLの他にも、昔懐かしい鉄道関連の品が数多く展示されていますので、足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

○開館日 第2、4金曜日

13時～15時
○場所 鉄道資料館

